

エコニュース さって



第 43 号

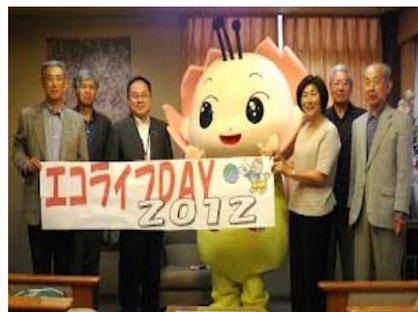
平成 24 年 6 月 22 日
幸手市市民環境会議
(さって市民環境ネット)
TEL48-0331

エコライフDAYに参加しよう！。

報告：中山

毎年行われています「エコライフDAY」が、幸手では7月8日より7月15日を期間として実施されることになりました。環境課と共同で「エコライフDAY」実行委員会を組織し、5月17日市長さんとこの宣言式を行いました。

昨年のチェックシート参加率は、14%（対人口比）と多くの方々に関心を持っていただきましたが、県内市町村ランキングではベスト10位を惜しいところで逃がしてしまいました。今年はこれまでの活動に加え、小中学校や市民の方々にももっともっとPRし、10位以内を目指したいと思っています。PRの手段として、次のことを市長さんにもお願いし実施しております。



市長とのエコライフDAY宣言

一つ目は、小学校に緑のカーテンを作ることです。

5月23日、幸手小学校職員室の花壇にゴーヤ苗を移植しました。雨天の関係で日程変更がありましたが、市長さんにも参加いただきました。どの程度効果あるカーテンになるか心配ですが、子供たちの水遣りなど積極的な参加がされますので立派なカーテンになるものと期待しています。来年は他の小学校、中学校でも行いたいと思っています。



移植後に市長・児童の記念写真

二つ目は、南公民館でのゴーヤカーテンです。



6月10日、同館南西部側にある児童室は利用率の高い施設ですが、夏場には強い西日で皆が閉口しております。児童室南西部側の窓2面に会員が育てたゴーヤ苗16株をプランターに植えました。建物の中ほどまでカーテンで覆うように高さ5mのネットも設置しました。水遣りなどの管理は、公民館職員にお願いしました。

南公民館での移植後の記念写真

三つ目は、「エコライフDAY」関連事項を記したポスター（模造紙）3枚ほどを市役所入口に掲示することです。本運動の啓もうとPRに努め、出来るだけ多くの市民の関心を集めたいと思っています。

第6回中川探検ウォークが延期に

報告：石井

4月14日に予定されていた「中川探検ウォーク」が雨天の為10月20日（土）に延期になりました。中川流域の自然を多くの市民に伝え、ふるさとの貴重な自然を再発見する活動として観察会を行っていますが3月31日、4月7日の2回の下見会で武蔵野銀行みどり基金の助成金により購入した双眼実体顕微鏡やスタンドルーペ等の観察機器の使用等本番を想定した準備を行いました。10月は春の中川と趣を変えた秋深まる川の散策となりますので大いに自然を楽しむことが期待できます！。

腐葉土つくりの会活動報告 報告：石井

第82回 土壌改良剤として第1基目の熟成腐葉土の頒布完了、

第2基も熟成し頒布開始、第3基は3回目の切返しを実施！

農園の草取りは後日有志で実施！



今年例年比べて3月が寒く各地桜の開花が1週間以上遅れたため、4月15日（日）、幸手堤の桜が満開の日、行楽を午後をお願いし、9時から、22名が出席して3回目の熟成腐葉土の頒布を行いました。こここのところ春特有の3日～4日ごとの雨天で、週末の雨が多く、前日の雨で畑がぬかっていたため予定していた農園の草取りは延期しました。

冒頭、会長から政府の原発再稼働の見切り発車であるとのコメントがあった後、事務局から作業案内があり女性群が中心になって第1基目の熟成腐葉土の袋詰め行い、男性群は3基目の切返しを行いました。今回で第1基目を使い果たしました。第2基目も熟成している（指で落ち葉が崩れる）ことを確認して袋詰め開始しました。50袋ほどが頒布されました。終了後、これから6月までの予定を連絡し、天気予報から翌週の22日（日）は雨の予報であり、21日（土）の9時から草取りを行うので有志は集まるようお願いして散会しました。

21日（土）、9時から有志11名が集まって農園の草取りを行いました。幸い、前日まで数日間は曇りがちで雨が少なく全員が靴ばきで作業ができました。タマネギ畑は雑草と共存している状態でしたが、全員で草を取ったため30分間程で終わりました。タマネギは5月末～6月初旬の収穫楽しみです（赤タマネギは2/3以上が枯れてしまい残念でしたが）。タマネギと一緒に植えたかき菜は今まで何回か皆さんでシェアして食べましたが、今回、花が咲いているため最後の葉を摘んで全て抜き取りました。

サツマイモ栽培予定の畑とジャガイモ畑の草取りも行って1時間少々で作業が終了して、次回は連休中のジャガイモの芽欠き、追肥及び土寄せを予定して散会しました。

なお、事務局が道端とトラックターが入る通路の雑草は繁茂していて処理が大変なので薬を散布しました（今までは地主が処理していました）

第83回 サツマイモ苗植え及びジャガイモイモの追肥と土寄せを実施！

タマネギの生長を確認！

5月13日（日）、薄曇り、10時から22名の出席で開催しました。先の日曜日（6日）までは数日毎に雨が降り、天気都合で畑のぬかるみを心配していましたが、その後少しの小雨はありましたが晴れが多く、その間、地主が勤めの合間に早起して畑を耕してくれました。新井さんに友人からサツマイモ苗を入手して頂き、前日（12日）に300本安価で購入して準備を整えました。

会長の挨拶後、まず、事務局の案内で先に抜いたかき菜の後片付けをしてから、サツマイモグループとジャガイモグループに分かれて作業を開始しました。

サツマイモグループは、鍬を使って1m間隔で両側から10cm程度の台形状の畝をつくり、畝の上部に30cm間隔で穴を掘り、穴に水をタツプリ施し、斜め植え（大きめイモが数本生る）でサツマイモ苗を植えました。その後、再度、水をタツプリ施しました。

ジャガイモグループは、最初に畝に沿って化成肥料（チッソ：リン：カリ＝6：6：6）を撒き、地面が乾いて固いのでマンノで耕し、その後両側からタツプリと土寄せを行いました。マンノの耕し作業が重労働でした。

今回から、熱中症予防対応で飲み物を事務局で準備しました。

なお、昨年度までの経験から、サツマイモは、植えた後、一週間は水分が少ないと枯れてしまうので、当番制で水やりをすることにしました。それぞれ班毎に参加者を決め、第一班（5名）は月曜日の夕方、第二班は水曜日、第三班は金曜日をお願いしました。途中

前日又は当日雨が降ったら略して良いことにしました。火曜日は大雨が降ったので水曜日は略したと思います。日曜日、畑に見に行きましたら枯れた苗はほとんどありませんでした。

最後に、タマネギの生長具合から3週間後の6月2日（日）9時から平成24年度総会を行うとともに、収穫、更に必要によってジャガイモの2回目の土寄せを行うことを約束し散会しました

第4回 ホウネンエビ観察

報告：石井

- ・実施日：平成24年5月26日（土）
- ・観察地：幸手市行幸地区・長倉地区
- ・参加者：一般参加9名（含む幼児1名）、スタッフ9名 計18名

5月26日（土） 天気・晴れ 朝の空は一日の晴れを約束しているような空でした。5月15日（土）の事前下見では、観察会の水田に多数のホウネンエビを確認していた。当日の朝、再確認のために調べてみると、状況が大きく変化していた。観察予定地とは違う水田も調べたが状況は同じであった。幸い長倉地区の水田に採種可能な場所があることがわかった。もっと広い範囲の調査を行うべきであると思った。また、期日を5月中旬にするということも検討したい。

今回の観察会では理科の学習と同じ光学機器を使用した。参加者数と観察機器との数が釣り合い、興味深く観察している様子から『学習』の雰囲気を感じた。スタンドルーペは野外で、双眼実体顕微鏡は室内で、という方法が安全な活用方法であると思う。公民館に戻ってから、まとめの時間が確保できたことも、質の高い活動ができた要因である。スタッフにもたくさんの収穫があった。光学機器を使って覗く世界は別世界であり、未知への挑戦になった。

また、新たな出来事があった！。毎年の観察会では気が付かなかった、丸みをおびた小さな水生昆虫を発見！。これはいったいなんだろう？。新たな課題に挑戦する“わくわく”感がとてもうれしい！。現在この幼生の生き物を調べているところです・・・。

参加者の感想には『初めて参加したが良い経験ができた。神秘的だった。』、『田んぼの中に神秘的な生き物があるなんて。感動した。』『不思議だった。・・・16匹だった。』など新しい発見や体験ができたことへの反応がたくさんありました。参加者の方々の高い関心と学習意欲、そしてスタッフの明るい対応に感謝いたします。

最後に、観察会場の水田を提供してくださいました菅谷様には心より感謝申し上げます。



千塚地区の水田観察



ホウネンエビの捕獲風景



ルーペを使用して観察

幸手小学校の環境授業

報告：八木

実施日：平成24年5月31日（木）

対象者： 幸手小学校4年生 42名

時間帯： 午前10時30分～12時10分(休憩を入れ、講義45分、観察30分)

指導者： 講義(本田・藤城) プレゼン教材(久保田) 観察説明(石井) 観察補助5人

授業の準備を前日(30日)授業を想定し、教材準備(ハウネンエビの捕獲、オオバコ・ヘビイチゴの採取)と授業のリハーサルを行い進め方や内容等の確認を行った。

授業の内容は児童42名に対しプレゼン資料を基に事前に配布した環境クイズの内容説明をしながら、本田さんが『自然を探そう』をテーマに幸手の代表的な環境スポットの具体的な例をあげ、人とのかかわりあいや観察のポイントを説明し、興味を高める授業を行った。続いて藤城さんが『身近な自然 ビオット』をテーマに「自然」が今、直面している地球温暖化について考える為に、ビオットにある植物(オオバコ・シロツメグサ)等や水辺の生き物の生態系、「生態系のピラミット」の図を使い生き物の仕組みについて説明、観察していると「自然」はいろいろな事を教えてくれることを説明した。

観察実習は児童を5班にグループ分けし、予め用意された観察物(ハウネンエビ、オオバコ・イチゴ・ヘビイチゴ)を双眼実体顕微鏡、卓上ルーペを使用し観察を行った。児童が平等に顕微鏡やルーペを順番に使用してくれたのでスムーズな授業を行う事が出来た。

授業の感想等について後日、児童全員が書いた感想文を頂くことが出来た。感想文の主なものは、顕微鏡等で見た「ハウネンエビ」の生体や植物を拡大してみた感想等が書かれていたり、授業で説明された植物や生き物、クイズで知った事柄など環境理解に役立ったことが書かれていた。また、クイズの回答は一人10問がだされ、正解率は87%という数字となり、環境理解に役立った授業だと思います。小学校からは授業のお礼の御言葉と児童と一緒に給食をとお声かけ頂き、遠慮なく美味しい給食を楽しむ事が出来ました。今回の授業を通じさらに環境保全の取り組みや観察等に力を入れ、更に喜ばれる授業になるよう取り組みたいと思いました。



「自然を探そう」の授業風景



顕微鏡を使って観察



屋外で学校給食を楽しむ

『浮きウキフェスタ24』の開催について (お知らせ)

平成24年10月28日(日)の開催を予定しています。(雨天時は11月11日(日)に延期) イベント内容は、水質浄化などの働きをする浮島づくり体験や水辺に親しむカヌー体験、参加企業・事業所の取り組み展示やPRなど様々な出展が計画され、市民有志のバンドグループによる演奏、幸手商業高校演劇部の「チンドンパフォーマンス」、ボランティア団体『ゆる玉もりあげ隊いな』によるゆるキャラ「コバトン」と「さっちゃん」の2体の出演も予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております！。

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手地産地消研究会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、幸ネット(子育て支援ネットワーク)、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園20期)、エコクラブW32(いきがい大学鷺宮学園32期)